



「向う三軒両隣り」

35年卒業 鶴澤 卓

母校三田高校を卒業以来三十五年という月日が去りゆきました。

その間、私達をとりまく環境は著しい変化をとげました。反面高齢化社会といふいやな言葉も耳にしなればならない時を迎え、私達も一歩一歩その仲間入りしなければならぬ様になりました。

昔、向う三軒両隣りといふ言葉も今では死語になりつつある傾向になって来りました。

住んでいるのかも判らない人も数多くいらつしやるのではないのでしょうか？

そうしたなか、今、私達の地域において、青少年育成委員会が中心となり、小中学校生徒を主体に、朝のあいさつ運動を行っております。通りの角々に立ち、おはようございますとしゃべり、と声をかけ合うという単純で地味なことではあります。最初恥ずかしがっていた子供達も最近ではすっかり慣れて来て、積極的に声をかけて来るよう

になりました。時折、会議等で学校に行つた時、校庭、廊下などで生徒に逢つた時、ごんちわ、おはようございます、と大きな声であいさつを受けます。朝のひと言でこんな

にさわやかな一日を過ごすことが出来ることは本当に嬉しく思います。それでも人も子供達を含めた近隣の人達とのコミュニケーション（向う三軒両隣り）がとれるのではないかと今後とも更に続けている今日この頃です。



「大震災に遭つて」

38年卒業 津山 三郎

今年一月十七日の阪神淡路大震災の後、普段は年一回の年賀状での挨拶程度の、三田高時代の友達から、「大丈夫だった？」「生きてるのか？」「お前の所全然電話が繋がらない」等々たくさん御心配を頂きました。又緊急物資を送つて下さる方も居り、本当に友達には有難いものだと痛感しました。私は三田に生まれ育ち、東京に居る時代にも可成りの地震に遭つていま

したが、転勤により関西に移り住み二十数年、此度の地震には、本当に命の縮む思いをしました。日頃災害時の心構え、知識は有つたつもりでも、いざ遭つてみると何も出来ないのだと云う事が良くわかりました。その後も各地で大きな地震が発生しており、日本列島が地震の活動期に入つたとも云われております。災難には遭わぬに越した事は無いのですが、不幸に

も遭つた時に適切な対応が出来た様、日頃訓練は具体的に身体を動かして、繰り返して肌で覚える事が大切だと思ひます。どうか皆様も今後十分に配慮しお過ごし下さい。



私と定時制三田高校

43年卒業 斎藤 至

三田在学中の四年間は、私にとっては、一番楽しいひとときだったなあーと思ひ出されます。職場を休んでも、学校を休みたいと思ふことがなかつたし、級友と過ごすひと時が、すごく楽しみにしていたと思ひ出します。

そんな在学時代の行事、球技大会、運動会、文化祭などの思い出もありませんが、夏休みに実施しておりますが、林間学校が、一番印象に残る行事です。木曾駒ヶ岳登山では、ボンネットバスにゆられての登山で、山頂付近のカール、雪渓など自然

然の営みを学びました。八ヶ岳では、駒草、リンドウ、スカシユリなど高山植物の名前を教わりました。

林間学校では自然との触れ合いはもちろんのこと、スイカ割、フォークダンス、キャンプ、ファイヤーなど、参加者との交流も楽しかったです。この林間学校の参加で、自然と



山が好きになり、家族で山登りを楽しむ一因になったものと思つております。

学友

62年卒業 柏木 良子

昭和五十八年に五十四才で三田高の定時制に入學。戦争中の女学校で学徒動員のため二学年までしか授業を受けられなかったので「何時か高校に行きたい」とずっと思ひ続けてきた。

いきなり高校の数学、英語は難かしいと思ひ、通信中学で月一回のスクーリングに通う。その時の学友は戦時中何らかの事情で中学や高等女学校へ行けなかった人達で向学心に燃えている五十代以上の人達なので遠

和感はなかつた。三田高の入学式では息子と同年代の現役高校生、若き溢れるツッパリ君、オシヤベリさん、大学を目指す秀才君、その中に入ったPTAのお母さんといった感じで気が引けた。授業中やホームルームで、頭の堅い私には呆れることがしばしばだったが、みんな純粋だった。

現在、あの四年間よく通つたと思ふが、暖かい学友と家族の協力のお蔭だった。

私のアルバム

67 宮崎 幸隆

WANTED、私をご記憶の方が、おられますか？三年の二期期にて、転校しました。卒業生名簿に友人と一語に載せて載いて、又、いつも「ともかき」を送つて戴き有難うございます。

一年生の中ごろから始めた写真のおかげで、撮りためた写真が有り、三年間の勉学の思い出に、一冊のアルバムにまとめました。私だけのアルバム完成、転校後、友人から送られた寄せ書きも一緒です。

今、このアルバムを開くと、何が不足しているのを感じるのです。四年生の修学旅行と卒業式の写真です。友人の卒業アルバムを借用し、拝見出来るチャンスは有つたのですが、当時は、この様なオセ

ンチな気持は、思ひませんでしたので残念です。小生の長男は、中学三年となり昔を見ています。同窓諸氏、いつの日か、お逢いする時があったら、卒業アルバムを見せさせていただきます。